

県民また世界が期待する 「Natural History Museum and Institute, Chiba・ ちば自然誌博物館」とは？

日時: 2025年 **11月7日(金)** 13:00~16:00
会場: 千葉市民会館 第3・4会議室 (参加無料)



「Natural History Museum・自然誌博物館」は、地域の人・自然・文化にかかわる資料・研究・学習拠点であり、自然保護やNbS(社会課題の自然に根ざした対策)にも重要な役割を担う博物館です。しかし近年、予算削減や観光重視等によりこれらの活動が停滞、また組織の変更・廃止等でその機能が失われている博物館もあります。

Natural History Museum and Institute, Chiba・千葉県立中央博物館は、生物多様性豊かな千葉県の自然及びその人とのかかわりを探究し、これを守り伝える自然誌博物館として誕生した公立博物館であり、また国指定の学術研究機関でした。しかし、開館から35年が経過した2024年、県の突然の政策変更により、「自然誌・歴史研究部」と「生態・環境研究部」及びその両部の「7つの研究科」が全て廃止されるなど、自然誌博物館としての機能が大きく失われました。

自然誌博物館研究グループは、このNatural History Museum and Institute, Chibaの変質の原因と現状を分析し、その再生のため「(仮称)県民・研究者版 ちば自然誌博物館みらい計画案」を作成、この実現とともに、その内容が全ての博物館にとって更なる充実の資料となることを目指します。

プログラム(敬称略)

■開会・総司会

大庭 照代(千葉県立中央博物館市民研究員・元千葉県立中央博物館生態・環境研究部主席研究員)

■ 自然誌博物館研究グループ代表挨拶

中村 俊彦(東京湾学会会長・元千葉県立中央博物館副館長)

■ 基調講演「ミュージアムパーク茨城県自然博物館の30年と今後」

横山 一己(ミュージアムパーク茨城県自然博物館館長)

■ パネルディスカッション

堂本 暁子(生物多様性10年日本委員会委員・ちば自然誌研究会顧問・元千葉県知事)

横山 一己(ミュージアムパーク茨城県自然博物館館長)

金親 博榮(千葉市森林組合長・私の田舎谷当工房代表・NPOバランス21顧問)

西田 治文(中央大学名誉教授・元千葉県博物館協議会議長)

林 智絵(東京大学農学特定支援員・元千葉県立中央博物館市民研究員)

佐々原 宏(日本海洋教育学会会員)

町田 小織(東洋英和女学院大学国際社会学部専任講師)

ファシリテーター

新 和宏(川村学園女子大学講師・Interactive Museum and Institute Center Director・元千葉県立中央博物館分館海の博物館長)

■ 閉会挨拶 西田 治文

主催: 自然誌博物館研究グループ
後援: ちば自然誌研究会

問い合わせ先: 新 和宏 gqcn2wp9k@lake.ocn.ne.jp
中村俊彦 qqvq6tq9k@star.ocn.ne.jp



配付資料の必要部数の準備のため、事前に参加のご連絡を頂ければ幸いです。当日参加も受け付けます。なお、フォーラムの後、会場付近で交流会を予定しています。参加頂ける方の連絡をお待ちしています。